



Scholar Interview

研究室から

★ 鷹野 敦 准教授

理工学研究科 建築学専攻
NPO法人こどものけんちくがっこう 理事長



住む人一人ひとりの街づくりに対する“民度”を高めたい。 街づくりに関心を持つ人を育てる建築家の取り組み ～こどものけんちくがっこう～

工 学部建築学科の鷹野敦准教授（環境建築研究室）は、木造建築や木質材料

についての研究とともに、県内外の建築物の設計・施工に携わる「半土半農」の建築家だ。地域貢献活動にも力を入れ、本学に赴任した2016年度から鹿児島市の工務店（株式会社ベガハウス）との産学協働により、県内の小中学生を対象とした「こどものけんちくがっこう」を運営。継続的な取り組みは全国的に高く評価され、この2年間に「こどものけんちくがっこう」は3つの賞を受賞した。多彩な活動の根底にある鷹野先生の思いを伺った。

★街づくりに求められる
住民一人ひとりの“民度”

鷹野先生は大学時代、本学の建築科で学んだのち建築事務所での実務経験を経て、フィランソロピーのアールト大学へ留学。木造建築や木質材料、環境についての学びを深める傍ら、海外での見聞を広めた。「ヨーロッパの国々では、一般のおじさんやおばさんが建物にとっても詳し



験がある
と、将来、家を

く、街の景観への関心が高い。街にそぐわない建物が建てられそうになると、周りがすぐ止めにかかります。建築や街づくりに関する人が育てるという遠大なねらいもある。

★ユニークな現代版・郷中教育

月2回開講することものけんちくがっこうでは、小学校3年生から中学生まで、学年に応じて1年間のカリキュラムが組まれる。前期は家具や工具箱づくりなど手を動かすことで木に親しみ、後期は建築現場や製材所の見学などを通じて考える学習が入る。建築の実習として農学部附属演習林にウッドサークルを作り、マ

ルヤガーデンズ（鹿児島市）のたということ。多角的な視点からの評価を、鷹野先生は喜ぶ。「百姓とは単に農業従事者を指すのではなく、色々な仕事を指す人のことを指すという考え方に共感するし、私自身そうである。鷹野研究室では、こどものけんちくがっこうをはじめとする研究・建築活動の主体に学生を据えている。企画、運営のほかお金やスケジュール管理など、社会と接点を持ち、実践の場で学んでほしいという鷹野先生の教育方針によるものだ。建築は実学だから、学生も巻き込んで研究も実践も等しく行いたい。環境という視点から木を考える研究をやってきたので、おのずと自然も人も複雑に絡み合って成り立っているという意識に」と語る。休日の菜園づくりも、フィンランド時代から続く活動の一つ。「いろいろな菌や虫や雑草や野菜が共生しているのが健全な畑。今日の社会的、環境的な問題は、複雑さの欠如に起因していることが多いように感じる。シンプルに考えながら、状態としては複雑でありたい」と結んだ。

協力を得る

得る館内

実物大の遊び

制作したこともある。子どもたちへの指導は全て大学生が務めるという郷中教育スタイルも特徴で、学生が主体となつて毎年、趣向を凝らした活動に取り組んでいる。今年度は、変化する社会情勢を契機と捉え、オンライン講座も新たに導入した。ユニークな取り組みは全国的に注目を集め、2018年度の第14回木の建築賞において「木の活動賞」、ウッドデザイン賞2019において優秀賞、さらに2020年度日本建築学会教育賞を受賞した。

★考え方はシンプルに、状態は複雑に。

「木の建築賞は、建築家や研究者など木のプロフェッショナルが選ぶ実務目線の賞、ウッドデザイン賞は消費者や市民にどのような木を届けているかという視点で選ぶ賞。建築学会の教育賞は、アカデミックな教育活動としての位置づけが認められ



一般社団法人日本建築学会教育賞。こどものけんちくがっこうの下見を兼ねて農学部が実施した自然学校に参加（垂水市農学部附属演習林にて2018年）

Profile

鷹野 敦（たかの・あつし）

鹿児島大学理工学研究科建築学専攻 修士課程2004年3月修了、アアルト大学 School of Chemical Technology 木質材料学 修士課程 2012年06月修了
フィンランド共和国、アアルト大学 School of Chemical Technology 木質材料学 博士課程 2015年09月修了、2016年3月より現職。一級建築士
■所属学会：日本建築学会/日本木材学会/日本森林学会
■専門分野：建築学
■研究テーマ：○建築設計○木質材料○木造建築○環境評価